

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4270300397		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	長崎県島原市中安德町丁1769番地3		
自己評価作成日	令和6年9月30日	評価結果市町村受理日	令和6年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成新山や眉山、有明海に面した自然豊かな場所を目の前に散歩したり、国立公園や世界遺産など歴史を感じられる所や、温泉などの観光名所が近くにありますので外出支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関前から平成新山を眺め、その背後には有明海を一望できる場所に立地し、自然豊かなロケーションを楽しむことができる。入居者はできる限り毎日フロアに出て身体機能低下を防止するため体操や、生活リハビリを取り入れ、職員はお盆拭きなど本人ができる範囲で行えるよう支援している。入居者と一緒に制作した季節を感じさせる貼り絵やカレンダーを掲示し、居室のドアには本人の名前と顔写真を掲示して見当識に配慮し、また、避難時に使用する吊り下げ名札を各居室前に準備し、避難時に円滑な情報確認に活かせるようにしている。桜やコスモス、アジサイなど、季節の花見に弁当を持参して外出する機会を設けたり、天候の良い日は庭先のベンチや、駐車場で日光浴をするなど、入居者の気分転換を図っている。ホーム全体で実践している毎月の目標について職員に周知を図り、目標の裏面には各職員がサインし共通認識を持って実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、理念に基づいた目標を立てて業務に取り組んでいる。	開設当初からの理念である「生涯現役」と共に、担当職員が決めた毎月の目標を掲示し、目標の裏面には職員それぞれがサインし、共通認識を持って介護を実践している。毎月の会議で目標達成度を確認し、未達成であった場合は目標を継続し、達成した場合はその担当職員が交代し、あらたな目標を設定することで目標の意識づけに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの感染状況を見ながら、一つずつ交流を増やしている。	コロナ禍の影響により地域との交流は減少しているが、隣接の同法人が運営するデイサービス事業所に地域の寺院住職を招いてコンサートを開催しており、入居者も参加し好評であった。施設長は今後、感染状況を見ながら中高生のや職場体験学習等を受け入れていく意向である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方に、認知症の人の言葉や行動等を説明し、理解と協力をしていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況やサービス内容を説明して、いただいた意見を取り入れサービス向上に繋げている。	運営推進会議は隣接のデイサービス事業所で開催し、民生委員、市広域圏組合職員・家族代表・施設長・職員が参加している。コロナが5類になり、会議は対面で実施している。入居者の日々の活動状況、入居者の状態、職員研修等について各委員へ報告し、各委員より出された意見や要望を運営に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスの感染状況を見ながら、リモートや電話等で担当職員へお伝えしスタッフ研修等を共同で行っている。	市の担当者には各種加算要件や介護保険手続き等、行政手続きに関する連絡・相談や、集団指導を受け適切なサービスを提供するために必要な情報を得ながら取り組んでいる。島原半島グループホーム連絡協議会に加入し、職員はオンライン研修に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度研修を行い、二か月に1度身体拘束防止委員会を行っている。	ホームでは昼間の玄関の施錠は行っていない。言葉づかいについて、「ちょっと待って」等、スピーチロックに気づいた際は注意し合い、適切な言葉かけができるよう努めている。職員は島原半島グループホーム連絡協議会主催の身体拘束・虐待防止に関する研修に参加している。虐待防止も含め身体拘束に関する内部の勉強会も定期的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度研修を行い、二か月に1度虐待防止委員会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修を行い、必要時支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や利用者契約書の説明を十分に行い、改定になった時もその都度説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や広報や面会等でご家族からの意見や要望を聞く様にしている。 利用者からは普段の生活の中で聞く様にしている。	毎月発行するホームだよりには入居者の写真を載せ、担当職員からは家族へ入居者の健康状態、生活状態、行事内容を知らせ、家族の安心感に繋がっている。家族が訪れた際や、電話連絡時に要望等を聞き取り、家族の意向等を運営に反映している。	面会制限もあり、職員が家族と接する時間も限られる中、家族が担当職員の名前等を把握できない場合が窺える。今後、例えば月1回家族へ入居者の近況を知らせる「ホームだより」を活用して職員紹介を行うなど、職員と家族との関係づくりに努めることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やその都度で意見や提案を聞いて反映している。	毎月25日に職員会議を開催し、前月の目標達成度や反省点、今月の全体目標の決定等、様々な事項について活発な意見交換が行われ、運営に反映している。職員の各種資格取得に関し、職員個人の負担なく、Eラーニングの活用やスクーリング等に参加できるよう母体法人によりバックアップを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の頑張りに応じて細かい査定を行い、報酬にて評価している。また、職員が希望するスタッフ研修を定期的に行い働きやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議やスタッフ研修において、職員1人1人の力量を図り役割や担当を決めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や半島のグループホーム連絡協議会に入会し、情報交換や研修を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たな環境に慣れていただくようにご家族及び本人より情報提供していただき、アセスメント、ケアプランを基に安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族及び本人より情報提供をいただきアセスメント、ケアプランを基に関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族及び本人より情報提供をいただきアセスメント、ケアプランを基に、他のサービス内容も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見つけ出し、洗濯物や掃除、食器片づけ等のお手伝いを行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時間を大切にし、本人の要望があればご家族と相談し、一時帰宅を促している。現在は予約制の窓越し面会を主として、コロナウイルスの感染状況を見ながら緩和している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、ご家族等を含めて支援を行っている。	同法人はサービス付高齢者向け住宅、居宅介護支援事業所等を運営し、入居前には同事業所のケアマネージャーより入居者の詳細な情報を得て、馴染みの人や場の把握に繋げている。入居者へ孫の写真が送ってきたり、直接孫を見せに訪れ、入居者の喜びに繋げている。外出支援時に自身の畑を見てもらったり、墓参りに立ち寄るなど支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の性格を把握し、利用者同士が関わりを持てるよう会話を促したり、レクリエーションやイベントに参加していただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退所後もご家族等と連絡を取り、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が施設内での暮らしの中で希望や意向を把握して、できる支援を行っている。	職員は入居者の表情や仕草を見ながら、その方が反応したことには注意深く観察し、職員間でも共有し支援に努めている。昔話や祭りの話など本人が興味を持っていることに傾聴し、会話内容を膨らませるなどしてコミュニケーションを図っている。難聴の方には耳元で話し、必要に応じて筆談やジェスチャーを用いて思いや意向を確認し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から情報提供していただいたアセスメントを把握し、グループホームの生活の中でも会話等で、これまでの事を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや介護日誌、1人1人と関わっていく中で確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を必要な時期に開き、話し合いを行いケアプランを作成している。変更が必要な場合はその都度変更している。	介護計画は短期目標を6か月、長期目標を1年と設定し、必要に応じて随時見直しを行っている。担当職員を6か月毎に変更することで、入居者の新たな発見や異なる視点により支援の幅を広げることにつなげている。介護計画の内容は、ケアマネージャーより家族へ伝えられ同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや職員会議で情報共有し、必要であればケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の思いを大切にし、施設内のサービスだけではなく施設外のインフォーマルなサービス(お花見や地域交流等)にも積極的に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者に必要な地域資源を各関係機関や、スタッフ同士の情報交換により把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望の病院を受診し、病院との連携も行っている。	かかりつけ医への受診には職員が同行し、遠方の医療機関を受診する場合や、医師の説明に家族の同席が求められた場合は家族に協力を求め家族も同行している。受診の際は職員がケース記録の要点を持参し円滑な受診につなげている。入居者に体調変化があった場合は、家族へ電話連絡し、医療と連携できるよう配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に行っている医療連携において、利用者の状態や行動等を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が利用している病院等と連絡を取り合い、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族には、重度化やターミナルについてお話しし、本人やご家族の意向を踏まえて、納得できる支援を行っている。	入居時に看取りの方針を家族及び入居者へ説明している。職員は救命救急講習を受講し、心肺蘇生やAED(自動体外式除細動器)の使い方など応急手当に関する知識や技術を習得している。近隣のサービス付き高齢者向け住宅にAEDを設置している。看取り指針を整備しており、必要があればホームで看取りができるよう支援している。重度化に伴い、入居者・家族・医師・看護師・職員と話し合い、ホームでできる事を家族へ説明し、本人が食事が摂れなくなった場合は医師の判断により入院先へ移行している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し研修や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成し研修や訓練を行っている。地域交流や研修を踏まえて、協力を依頼している。	年2回、近隣のサービス付き高齢者向け住宅やデイサービス事業所と合同で避難訓練を実施している。本年6月には2回BCP(自然災害編)に基づく机上訓練に職員6名が参加して実施し、BCPに対する職員周知を図っている。備蓄は備蓄品一覧表を作成して管理している。	近隣に住宅が少ないため避難訓練時に地域の方の参加が難しく、地域と災害時の協力関係を築くまでには至っていない。今後、運営推進会議を活用するなど、ホームの避難訓練時にあわせて地域の自治会や消防団等に働きかけ、訓練への参加や連携が図れるよう取り組むことを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーや尊厳の研修を行い、1人1人の性格を把握し、声掛け、ケアを行っている。	入居者の個人情報やプライバシーに関し、契約時に家族へ説明している。たより等に掲載する入居者の写真に関し、家族より同意を得ている。職員は入職時に個人情報に関する守秘義務を負うことの誓約書にサインしている。職員は入居者の誇りや尊厳を損ねないよう言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で思いや希望の問いかけ、自己決定できるような声掛け、ケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を大切にして、できるだけ利用者を優先し、希望を把握して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族が必要と思われる道具は自由に持ってくることができ、使用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いやアレルギー等を把握し、栄養状態等を考えて提供している。また、食事の準備や片づけ等はできる方には手伝ってもらっている。	食事は、朝食はホーム内で調理し、昼食及び夕食は隣接するデイサービス事業所で調理し提供されている。入居時に入居者の嗜好やアレルギー等を把握し、食事形態や栄養管理等を考慮して食事を提供している。毎月1日及び15日には赤飯と茶碗蒸しを提供したり、敬老会には手作りお重弁当を準備するなど入居者の楽しみに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養、水分摂取状況は把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要な口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔や尿便意を把握し、必要なケアを行っている。	日中、ポータブルトイレを使用する入居者はおらず、個々の排泄パターンを記録に残し、入居者個別に誘導を行い、トイレで排泄できるよう取り組んでいる。失禁があった入居者には職員が小声でトイレや居室に誘導して清拭を行い、羞恥心に配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、運動量を把握して工夫をしている。どうしても便秘の方は下剤で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員や職員の勤務時間の都合で入浴を行っている。(火、木、土の週3回)	週3回午前中の中の入浴を基本として支援しているが、本人が希望すればその都度入浴を柔軟に支援している。入浴を拒否する方には入浴の順番を変更したり、職員の変更や別日に支援するなど支援している。皮膚疾患のある方は、市販又は医療機関より処方された保湿クリームでスキンケアを行っている。	脱衣所におけるヒートショック対策に関し、今後、温度計を設置するなどして、職員の体感だけではなく、室内外の温度差を目視して把握し支援に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が好きな時にお部屋で眠る事ができ、眠そうな利用者さんを見かけたら声掛けしてお部屋へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれのお薬説明書を個人ファイルへ添付して把握している。また、常に顔色など症状の変化がないか、様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中で、できる事や役割を探しだしてそれを行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、秋と天候の良い時は外出を行っている。個人の希望にもできるだけこたえられるよう行ける時に行っている。	桜やコスモス、アジサイなど、季節の花見に弁当を持参して外出する機会を設けている。外出時は感染状況や人が密にならない時間帯を考慮して見学に行くよう配慮している。天候の良い日は、ホーム前の庭先のベンチや駐車場で日光浴をしたり、おやつを食べて気分転換を図っている。理美容は2か月毎に訪問してもらい散髪を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じたお金を持っていただき、買い物時の支払いや購入した物品の金額を伝えたりして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は好きな時にかける事ができ、手紙も好きな時に出す事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場所には、皆さんが好まれる季節の飾りをしており、その時に合わせた温度調整もこまめに行っている。	ホームには季節に応じた飾りつけを掲示されている。フロアは毎日朝食後に早出職員が清掃し、手すり・ドアノブなどの要所は塩素系漂白剤を用いて拭き掃除を行い、清潔保持に努めている。居室のドアには本人の名前と顔写真を掲示し見当識に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい時は好きな時にお部屋に戻る事ができる。仲の良い利用者は把握しており、座席の配置や誘導も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から馴染みの物などを自由に持ってこられ、棚やタンス、クローゼットへ収納し整理されている。	居室のエアコンは3か月毎、及び季節の変わり目に清掃を行っている。居室には馴染みのものが持ち込まれ、思いおもいの居室になっている。本人の髭剃り・櫛・洋服・帽子などの手回り品を持参してもらうよう家族へ促し、居室のクローゼットに整理し収納している。居室は洗面所、トイレ、ベッド、たんずを整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のできる事、わかる事を把握しており、必要に応じて見守り、声掛け、誘導を行い、安全な生活を支援している。		